

地下水流向・流速測定結果

地下水流向・流速測定結果

測定は、既存孔 6 , D-2 , T-1 (GL-3.30mとGL-7.30m) , T-1 , T-2 , T-3 , T-4 , T-5 , T-6 , T-8で実施したが、T-8は孔内水の混濁が著しく測定はできなかった。表 - 1 に測定結果をまとめる。表中の流向は、北を0° 東90° , 南180° , 西270° で示してある。

表 - 1 地下水流向・流速測定結果一覧

地点	測定位置(m)		地盤高 (m)	流向 (°)	流速 (mm/s)	地質	その他
	深度	標高					
イ-6J (既存 6)	9.63	437.77	452.67	50	0.10	浮石層	
イ-22D (D-2)	16.50	439.16	455.66	218	0.22	砂混り粘土	T-7の代り
イ-32H (T-1)	3.30	437.53	440.83	108	0.10	粘土混り砂	埋土
	7.30	433.53		119	0.25	風化土	
イ-30G (T-2)	16.20	440.58	456.78	143	0.14	火山灰	
イ-29J (T-3)	9.00	444.27	453.27	99	0.07	ローム	
イ-400 (T-4)	11.50	438.30	449.80	115	0.06	粘土混り砂	
イ-380 (T-5)	11.80	438.19	449.99	209	0.82	砂混り粘土	
イ-33M (T-6)	10.50	440.24	450.74	227	0.05	パミス	
イ-13A (T-8)	11.00	455.34	466.34	孔内水の混濁が顕著で観測不可。			

地下水の流向は、おおむね地形に支配されている形で観測された。調査地中央付近の建屋を境に東では東流から南東流が主体である。T-5は局部的に南西流を示すが、南東に伸びる沢筋に引かれていると推定される。一方、建屋より西側では南西流が主流であり、やはり西に伸びる沢筋方向に流れている。T-8は、地下水が極端

に混濁しており、数日間放置した後も濁りはとれず、測定限界を超えた地点である。ただし、西～南西斜面で地下水の浸出及び湧水箇所がみられることから、地下水の流向は西～南西流と推定される。この結果は、地下水コンター図と比較的良く整合している。

地下水の流速は、 $0.05\text{mm/s} \sim 0.81\text{mm/s}$ ($0.18\text{m/h} \sim 2.9\text{m/h}$) と非常に緩やかであり、豊富な地下水が賦存しているとは考えにくく、地下水量は少ないと予想される。

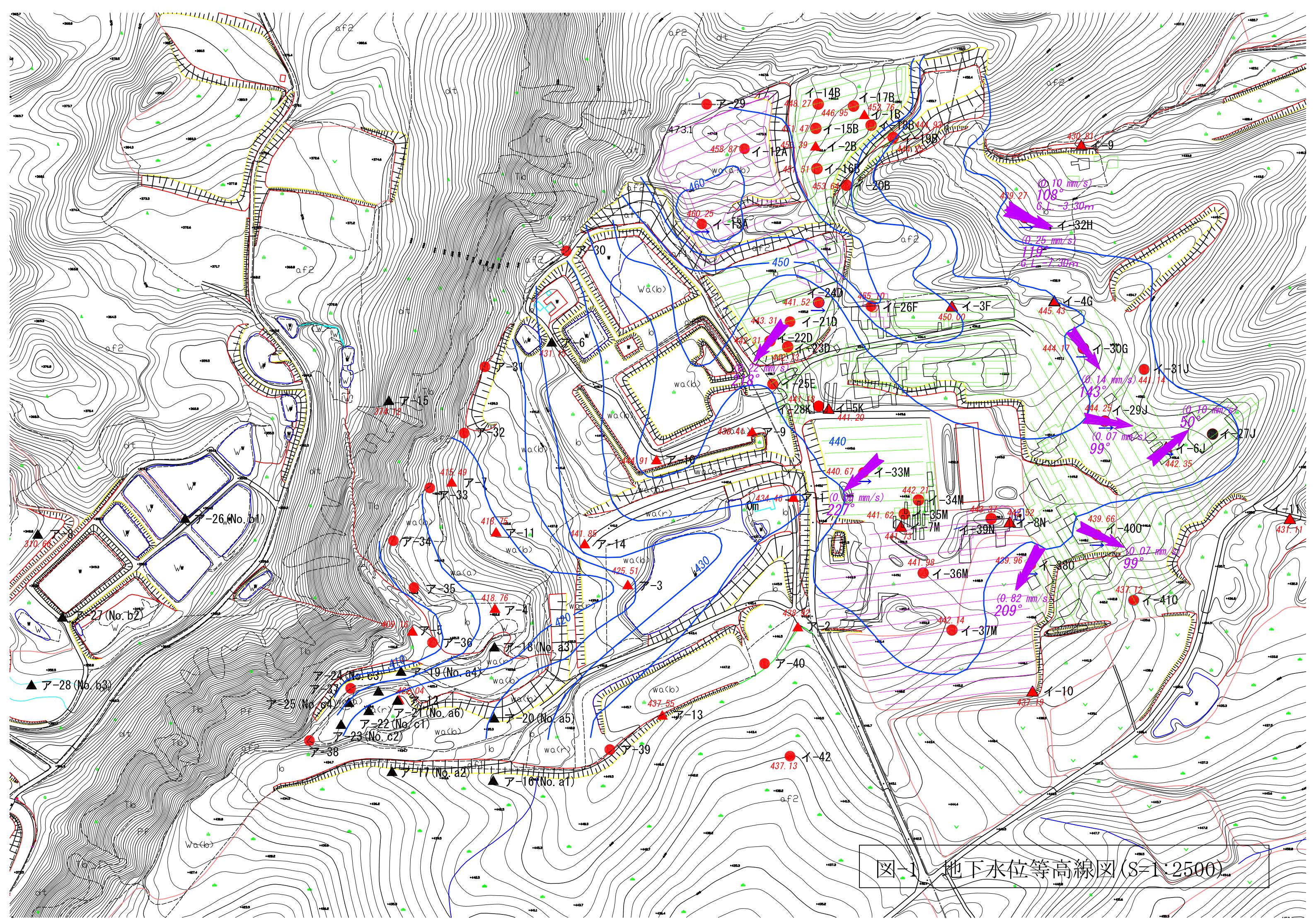


図-1 地下水位等高線図 (S=1:2500)